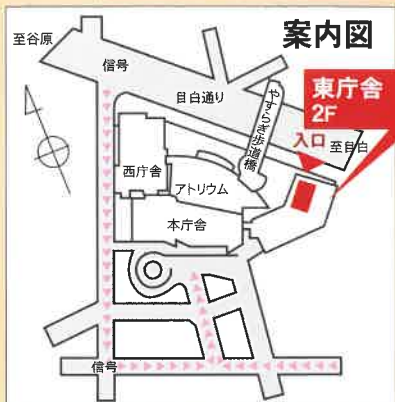


練馬区夜間救急 こどもクリニックご案内



場所

練馬区役所東庁舎2階
練馬区豊玉北6-12-1
☎3994-2238

診療日・受付時間

月曜～金曜(祝休日・年末年始を除く)
午後8時～午後10時30分
日曜・祝休日・土曜・年末年始
午後6時～午後9時30分
※昼間の診療については下記の 休日急患診療所案内参照

診療科目

小児科 (必ず小児科医師が
診療します)

対象

15歳以下の子ども

- 入院が必要な場合等は、連携病院に受入れを依頼します。予約は不要です。
- 受診の際は、保険証・(乳)・(子)各種医療証及びお薬手帳等をお持ちください。

急病のときのその他の診療所

- 練馬休日急患診療所【内科・小児科】
練馬区豊玉北6-12-1 練馬区役所東庁舎2階 ☎3994-2238
- 石神井休日急患診療所【内科・※小児科】 ※主として内科医が小児科を兼務しています。
練馬区石神井町3-30-26 石神井庁舎地下1階 ☎3996-3404

受付時間	日曜・祝休日・ 年末年始	午前10時～午前11時30分 午後6時～午後9時30分	午後1時～午後4時30分
共通	土曜	午後6時～午後9時30分	

相談窓口

- *東京都医療機関案内サービス「ひまわり」 ☎5272-0303
- *東京消防庁救急相談センター ☎3212-2323
(24時間対応・年中無休)
- *東京都「子供の健康相談室」(小児救急相談) ☎5285-8898
(平日:午後6時～翌朝8時)
(土・日祝:午前8時～翌朝8時)

- かかりつけ医の案内など 医療連携・在宅医療サポートセンター ☎3997-0121
(平日:午前9時～午後5時)

こどもクリニック通信NO.6

熱性けいれんって なに?



*お子さんの様子がおかしいときは早めにかかりつけの小児科へ、
また夜間の救急の場合には、「練馬区夜間救急こどもクリニック」へ

(ご案内は裏)

練馬区・練馬区医師会

熱性けいれん

ってなに？

熱が上がるときに
けいれんをおこす
ことがあります

熱性けいれんとは

かぜや肺炎、突発性発疹などで高い熱をだしたときにおこやすく、1~4歳くらいの子どもの約10%がおこすともいわれていますが、たいてい6歳になる頃には自然におこらなくなります。

どんな症状

熱の始めに急に意識がなくなり、体を硬くしたりガタガタふるえたりすることがあります。また、熱性けいれんは熱の上がる時の寒気(さむけ)に似ていますが意識がない、つまり呼びかけなどに応じない点が異なります。多くの場合は5分以内にとまります。



子どもがひきつけてあわてないお父さんお母さんまたは保護者はいませんが、ほとんどの場合は短時間でとまりますので、あわてずに下記のことをしてみましょう。

- 1 まずは落ち着いてください。
- 2 静かに寝かせておきましょう。

「わたしがあわてては、この子のためにならない」と言い聞かせて…

からだを激しくゆすったり、たたいたり、大声で名前を呼んだりしない。

- 3 衣服をゆるめて、風通しの良い静かな部屋に寝かせましょう。
- 4 翌日にでも病院を受診しましょう。

吐いたものがのどにつまらぬように顔を横向きにしましょう。

熱性けいれんは軽症の場合が多いのですが、まれに重症の場合もありますので念のために受診しましょう。

しかし次のようなことがありましたら、すぐに病院に行きましょう

- ① ひきつけ時間が10分を超える
- ② 1日に何度もひきつけをくり返す
- ③ ひきつけが終わっても意識が戻らない

* 赤ちゃんは感受性が強いので、お父さんお母さんまたは保護者がパニックになると赤ちゃんも不安になります。落ち着いて対処しましょう。